

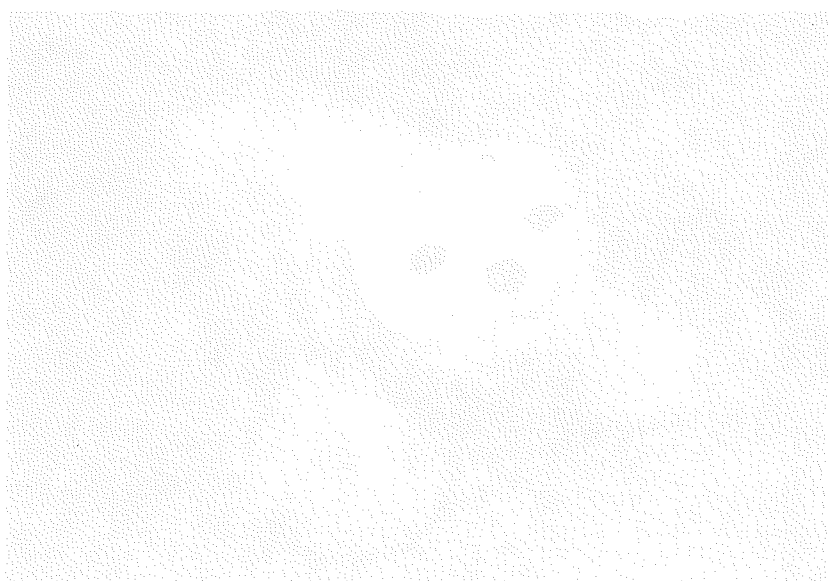
# パロ利用に関する手引き



施設名		名前	
-----	--	----	--

## はじめに

本手引きでは、パロを用いた触れ合い活動の効果的な方法を紹介していきます。しかし、一口に触れ合い活動といってもその方法は様々です。対象の利用者の性格や症状、ペットを飼っていたかどうかなどによって変わってきます。そこで本手引きでは、パロを渡す時・パロと触れ合う時・パロを受け取る時・利用者の近くを通りがかった時の4種類と、パロを用いた事例集に分けて、各場面で状況設定をし、その場面ごとに効果的な触れ合い活動の仕方や注意点などをみていきます。ご自身が直面した場面に応じて、触れ合い活動の参考にしてください。なお、本手引きがパロを用いた効果的な触れ合い活動の方法の全てではありません。本手引きを参考に、ご自身で介入の方法を探ってみてください。



# 第1章 パロについて

パロは（独）産業技術総合研究所で開発されたアザラシ型ロボットで、人との身体的な触れ合いを通して、人の心に楽しみや安らぎの作用を与えます。パロを用いたロボット・セラピーは、現在様々な臨床の現場で使用されています。

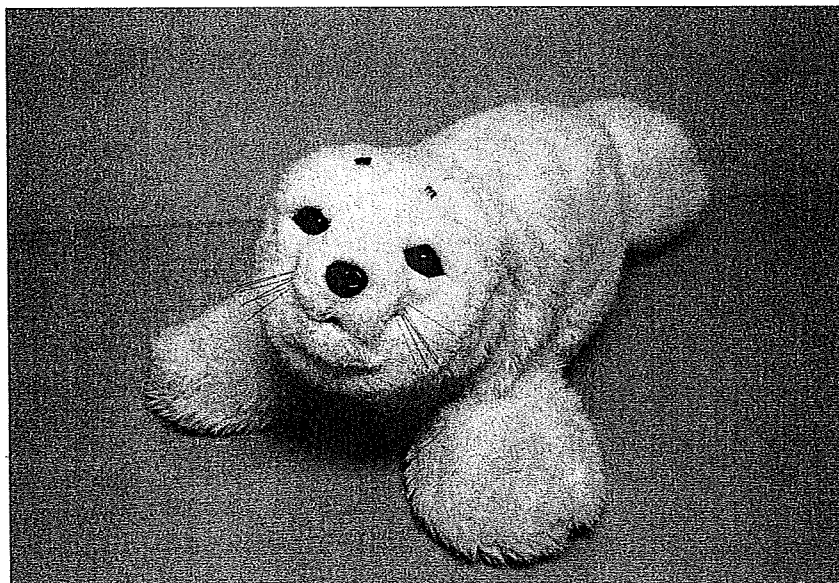
## 1.1 ロボット・セラピー

ロボット・セラピーとは、動物型ロボットを用いて、アニマル・セラピーと同等の作用を得ることを目的とした療方法です。

実際に生きた動物を用いるアニマル・セラピーでは、動物による噛み付きやアレルギーなどの問題があります。また施設によっては動物自体が禁止となっている所もあります。そこで、動物型ロボットを生きた動物の代わりに用いるのがロボット・セラピーです。これまでの実験・研究で、ロボット・セラピーはアニマル・セラピーと同等の効果を持っていることが確認されています。また、ロボットを用いることで、安全面・衛生面における問題も解決されます。

パロは現在までに、国内外合わせて複数の高齢者福祉施設や病院などで臨床実験が行われており、以下のような結果が得られています。

- ・ 心理的作用 … 人を元気付ける、動機付ける、不安・徘徊の抑制など
- ・ 生理的作用 … ストレスの低減、脳活動状態の改善など
- ・ 社会的作用 … 利用者とスタッフとのコミュニケーション活性化など



## 1.2 パロのモデル

パロの外見は身近でない動物として、豎琴アザラシの赤ちゃんをモデルにしています。豎琴アザラシは、生後3週間だけ真っ白な毛で覆われているという特長があります。パロも、白い柔らかな人口の毛皮で覆われており、医療福祉施設などでの使用を想定し、毛皮には抗菌加工や抜け毛防止などを施してあります。また、専用のスプレー式クリーナーによりクリーニングをすることもできます。

## 1.3 パロの機能

パロは感覚として、触覚、視覚、聴覚、平衡感覚を持っており、触れ合う人やその環境・状況を感じることができます。

つまりパロ自身は、

- ・ 背中を撫でられている
- ・ 抱っこされている
- ・ 頭を叩かれている
- ・ 名前を呼ばれた・・・など

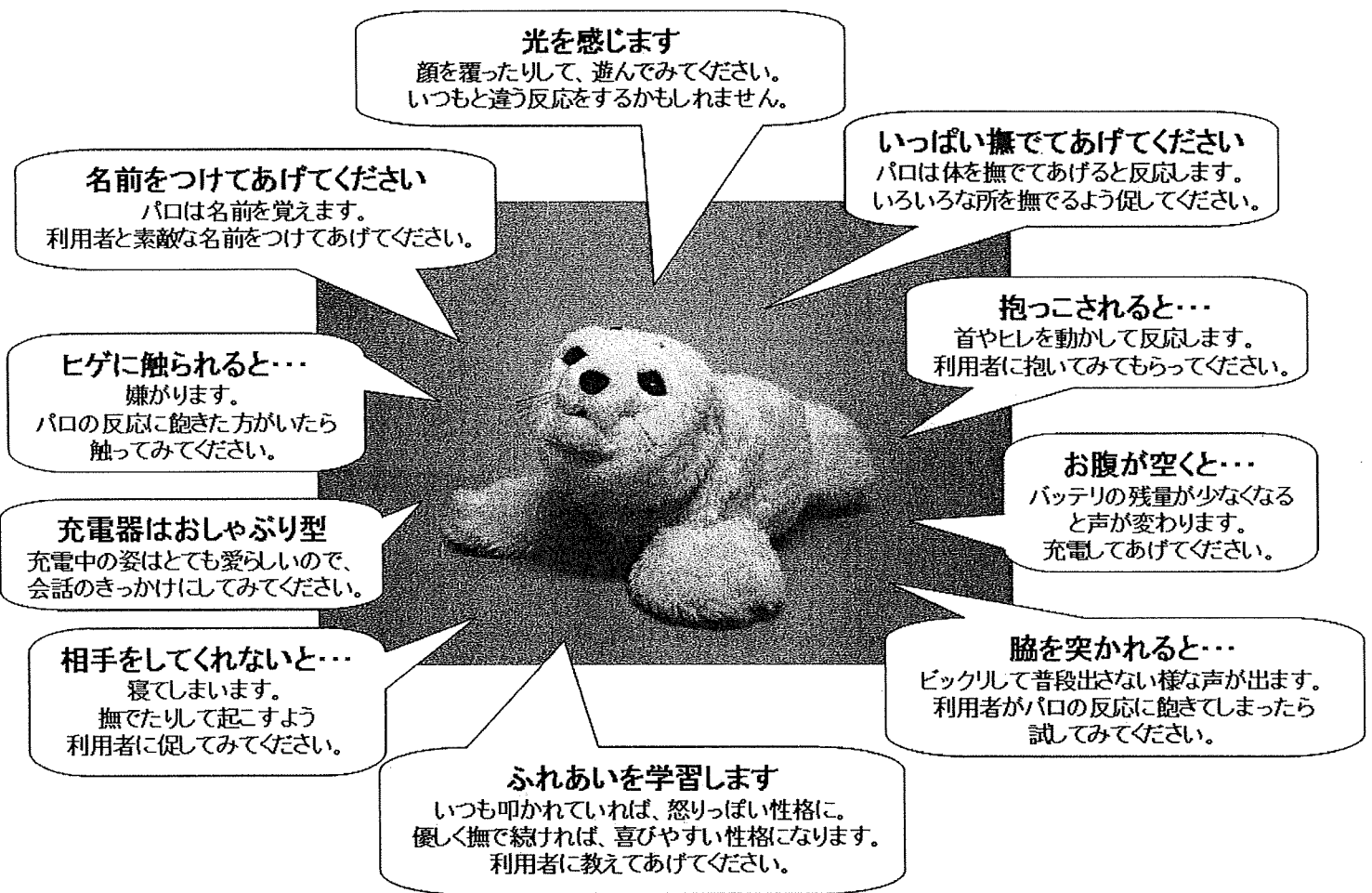
の行為をしっかりと感じているのです。

この様に人の触れ合いを通して、パロの内部の状態が変化・成長して、昨日までとは違う反応を示したり、自分の名前を覚えたり、触れ合う人の好みの行動を学習したりします。

パロの音声は、本物の豎琴アザラシの赤ちゃんの鳴き声をサンプリングして、複数用いています。また、パロは約2.7[kg]で、人間の新生児とほぼ同じ体重です。

## 1.4 パロの操作

パロの操作は主電源のON/OFFのみで、特別な知識を必要としません。内蔵のバッテリーにより約1時間半動作します。充電は、餌を与えるようにおしゃぶり型の充電器を口に挿入することで行います。充電器使用中も動作することができ、その場合は1日中動作可能です。しかし、この時には同時に充電は行われていません。パロを充電する時は、電源をOFFにしてから行ってください。また、使用後パロの体温が高い場合、充電しません。半日ほど時間をおくなど、体温が下がってから充電してください。



## 1.5 パロのクリーニング

パロは専用のスプレー式クリーナーを使ってクリーニングすることで、清潔に保つことが出来ます。

- ①スプレーをパロの全体に吹きかけます。  
全体がしっとりと濡れるくらいが目安です。
- ②乾いた布でゴシゴシとパロを拭いてあげます。  
軽く撫でるのではなく、少し力を込めて汚れを拭きとってあげてください。
- ③全体が拭き終わったら仕上げのブラッシングです。  
市販されているペット用のブラシを用品です。  
パロの毛がフサフサになるまで、ブラシをかけてあげてください。

このクリーニングですが、スタッフが行うのではなく、施設利用者の方に行っていただくと効果的です。直接利用者の方にクリーニングを行っていただくことで、自分がパロを飼っている・世話をしているという感情が生まれ、パロに対して愛着が湧くことがあります。この様にパロに対して愛着が湧くと、その後の触れ合い活動がよりスムーズになるなどの効果があります。



また、付属のクリーナーは、プッシュ式のため高齢者の方には多少使いにくい場合があります。その場合は、市販のグリップ式の容器に中身を入れ替えることで、高齢者の方にも使いやすくなります。



## 第2章 パロとの触れ合い活動

パロを扱う上で、どの様なタイミングで使えばよいのか、分かりかねることがあると思います。この問題に関して正しい解答はありません。ある福祉施設では、プログラムとプログラムの間のちょっとした空き時間に使っています。また別の福祉施設では、朝利用者が全員揃うまでの時間、もしくは帰宅前の待ち時間に使っています。この他にも、利用者全員が集まる時間や、休憩などでスタッフが少なくなる時などに使うケースもあります。

この様に施設によってパロの使い方は様々です。つまり、パロは使い方次第でどの様なタイミング・時間帯でも使うことができます。その施設の中での最適なタイミング・時間帯を探ってみてください。



## 2.1 活動の流れ

パロは自分自身では移動することができません。このため、1人の人がずっとパロと遊んでしまい、飽きられたり、放っておかれたり、他の人にパロが行き渡らなかつたり、することがあります。従って、適宜介入して触れ合い活動をスムーズにする人が必要となります。ここでは、この様な人をパロ・ハンドラーと呼びます。

パロとの触れ合い活動中の基本的な行為は、

- ・ 利用者に「パロを渡す」
- ・ 利用者「パロとの触れ合いを促す」
- ・ 利用者から「パロを受け取る」

が一連の流れになります。パロ・ハンドラーは、これらの行為を適切に行うことにより、活動を効果的に行うことができます。詳しい内容は、第3章～第5章にまとめてありますので参照してください。

また、パロ・ハンドラー以外のスタッフも少し気を配るだけで、触れ合い活動を活性化し、より良いものにすることができます。詳しい内容は第6章を参照ください。

## 2.2 活動の例

ここでは、活動の典型事例をポイントとともに紹介します。  
触れ合い活動の参考にしてください。

### 事例①（模範例）

あるデイケアの施設に通うAさんはパロのことが好きな人の1人です。いつもAさんは、レクリエーション後の休憩時間にパロと触れ合っています。この日もパロとの触れ合いを心待ちにしていました。

この時Aさんはイスに座り、机についていました。Aさんの隣には施設利用者のBさんが座っていました。

施設スタッフのGさんがパロを連れてきました。

「はい、お待たせしました。パロちゃんですよ。」

この時、Aさんの方にパロの顔を向け、Aさんの正面にパロを置きました。

Aさんは喜んでパロを撫で始めました。—————①



Aさんはパロ抱き始めました。

しばらくするとAさんはパロを抱いたまま少し困った顔をしていました。心配になったGさんは声をかけました。

「重かったら、机の上に置いていいですよ。」

安心した表情になったAさんは、パロを机に置き、触れ合いを続けました。—————②

同じ机にいるBさんが、Aさんとパロとの触れ合いの様子を眺めていたので、Gさんは声をかけました。

「Bさんもパロちゃんと遊びますか？」

すると、Bさんは「そうね。」とってパロの方に手を伸ばしました。—————③

しばらくAさんとBさんの会話が続きました。

Gさんが通りかかった時、Aさんにパロについて質問を受けました。

「この子、なんていう動物なの？」

それに対してGさんはこう答えました。

「アザラシの赤ちゃんなんですよ。かわいいでしょ。」

それを聞いて、2人はさらに会話が盛り上がりました。—————④

しばらくすると、パロの動作が停止してしまいました。

Gさんは電池が切れたのだと思い、パロを回収に向かいました。

「パロちゃんが眠っちゃったみたいだから、ベッドへ連れて行きますね。」

そう言ってパロを回収し、触れ合いは終了しました。—————⑤

## 事例①のポイント解説

### ①について

パロを渡す時に、パロの顔を渡す相手の正面に向けています。

→この様に相手に対してパロの顔を向けてあげると効果的です。

「3.2 パロに慣れている人に渡す場合」も参考にしてください。

### ②について

パロを長時間抱いている状態で、困った顔をしていたので、声をかけています。

→パロを下ろしてはいけないのではないか、という不安があったためです。

詳しくは「4.1 パロを長時間抱いている場合」を参照してください。

### ③について

隣で見ているだけの B さんに触れ合いを促しました。

→その結果、B さんは触れ合いに参加しました。

詳しくは「4.5 周りで見ている人に触れ合いを促す場合」を参照してください。

### ④について

利用者からのパロに関する質問に答えることで、会話が活性化しています。

→答え方によっては会話が途切れてしまうこともあります。

詳しくは「4.4 パロについての質問への対応」を参照してください。

### ⑤について

パロがまるで生き物であるかのように扱っています。

→利用者によっては、パロを本物の生き物と考えている人もいます。その様な人の夢を壊さないための対応も必要です。

詳しくは「5.2 パロを回収する場合」を参照してください。

## 事例②（注意すべき例）

あるデイケアの施設に通う C さんはパロのことが好きな人の 1 人です。この日、C さんはレクリエーション後の休憩時間にパロと触れ合っていました。この時 C さんはイスに座り、机の上にパロを置いた状態でした。

同じ机には施設利用者の D さんがおり、C さんとパロとの触れ合いの様子を眺めていました。

施設スタッフの H さんが、C さんをお手洗いに連れて行こうとしました。

「C さん、お手洗いへ行きましょう。」

C さんは触れ合いを中断させ、H さんに促されお手洗いへと向かいました。——①

C さんがお手洗いへ行っている間、パロは机に放置されたままでした。パロの鳴き声に、同じ机にいた D さんが反応を示しました。パロに興味がある様子ですが、手が届かないせいか自分からは積極的に触れようとしません。——②

少し経って、H さんに連れられた C さんが元の席に戻ってきました。

H さんは C さんを座らせると、他の方の対応のためその場を離れました。——③

Cさんはパロとの触れ合いを再開しましたが、少しするとパロを抱いたまま眠ってしまいました。パロはその間も鳴き続けたがCさんは起きません。しばらくその状態が続きました。——④

しばらくして眠りから覚めたCさんが、パロとの触れ合いを再開しました。その様子を隣の机に座る方々が眺めていました。自分達もパロと触れ合いたいようです。

その様子に気が付いたスタッフHさんが、Cさんのもとへ行き、「別の人達がパロと遊びたがっているから、連れて行きますね。」と声をかけてから、パロを連れて行きました。

Cさんは突然のことにとまどい、隣の机に行ったパロのことを心配そうに眺めていました。——⑤

## 事例②のポイント解説

### ①について

パロと遊んでいる人をお手洗いへ連れて行く時、パロについて触れずに、ただ「お手洗いへ行きますよ。」と言って連れて行っています。

→この様な時、利用者はパロを残して、自分がその場を離れることに不安を覚えている場合があります。

「パロはここで待ってるからね。」などと声をかけてあげると、利用者は安心して、その場を離れることができます。

詳しくは「5.2 パロを回収する場合」を参考にしてください。

### ②について

パロが机の上で放置されており、そのパロに興味がある人がいます。

→通りがかりに、近くに座っている人の方にパロの顔を向けて、触れ合いを促すなどしてあげるとよいでしょう。

詳しくは「4.5 周りで見ている人に触れ合いを促す場合」を参考にしてください。

### ③について

お手洗いから帰ってきた時に、パロについて何も声をかけていません。

→「またパロと遊んであげてね。」と一言かけるだけで、スムーズに触れ合いが再開されます。

詳しくは「4.3 触れ合いが途切れた場合」を参考にしてください。

#### ④について

利用者とパロが寝ています。

→眠ってしまう前にところどころ介入することで、触れ合いを継続的にしてあげるとよいでしょう。

詳しくは「4.3 触れ合いが途切れた場合」を参考にしてください。

#### ⑤について

パロを受け取る時、その時遊んでいる人から許可を得る前に持って行ってしまいました。

→相手の許可を得てからパロを受け取ってください。パロがどこに連れて行かれるのか、不安に感じてしまいます。

詳しくは「5.1 他の人に渡すために受け取る場合」を参考にしてください。

パロとの触れ合いは、かける言葉の一つ一つがその効果に大きな影響を及ぼします。一見手間に感じるかもしれませんが、通りがかりや去り際に一言加えるだけで大きな違いが生まれます。

## 2.3 施設別実施方法の事例

ここでは施設別のパロとの触れ合い活動の実施例を紹介します。

### ① 入所型施設

ここでは、パロとの触れ合いの時間を固定しています。ここでは、1週間に2回（水曜日・土曜日）、パロとの触れ合い活動を行っています。

昼食後の休憩時間（午後2時頃）に希望者を1つのテーブルに集め、約1時間パロと触れ合っています。1回の参加人数は5～7人で、3体のパロを使っています。この施設では、毎回触れ合い活動の担当者を決め（パロ・ハンドラー）、その方が触れ合い活動の間、パロと利用者の触れ合いの様子を、近くで事務作業などをしながら見守ります。パロ・ハンドラーは、適宜パロと利用者の間に入り、会話をしたり、他の人にパロを渡したりすることで、触れ合いをスムーズにする働きをします。

また、この施設では触れ合い活動の中で、2週間に1回程度パロのグルーミングを行うことがあります。パロには、専用のクリーナーがあり、それを使って利用者にパロを拭いてもらうのです。こうすることで、パロは清潔に保たれ、利用者はパロに愛着が湧くことがあります。

触れ合い活動終了後、パロは回収され専用のスペースにて充電されます。

## ② 通所型施設

ここでは、パロとの触れ合い活動の時間を固定せずに使用しています。こちらの施設では、利用者の送迎の時間に主に利用しています。

例えば、利用者が送迎を待つ間にスタッフがパロ抱えて利用者の間を回ります。この時、利用者は各々好きな場所で送迎の順番を待っています。スタッフはその中を、パロのことが好きな人やパロと遊びたそうにしている人を選んで、パロと触れ合っています。1回の触れ合い時間は特に固定せず、2、3分だったり、10分だったりします。スタッフは触れ合いの様子をみて、適宜一緒に遊んだり、他の人にパロを回したりしています。

また、こちらの施設では、触れ合いを担当する方を固定せず、手の空いている人・気が付いた人が触れ合いの様子を見守ります。そうすることで、パロだけに手を取られることなく、他の業務もすることができます。

## 第3章 パロを渡す時

パロを人に手渡す際には、最初の触れ合いが重要となります。その渡し方は様々で、どの様に相手の興味をひきつけるか、渡す相手がパロを好きかどうかによっても変わってきます。対面に立つよりも、横に並んで座るなどした方が渡しやすい場合もあります。相手の反応をよく見て、どの様に渡せば効果的かを工夫するとよいでしょう。

### 3.1. 初めてパロに触れる人に渡す場合

初めてパロと触れ合う人には、いきなり渡そうとしない方がよいでしょう。初めての人の中には、パロを見て驚く人もいます。その様な人に渡そうとしても、拒否されることもあり得ます。すると、その場が盛り下がり、全体の空気が悪くなる可能性もあります。従って、その様にならないためのフォローが重要になってきます。

最初にパロを見せて、相手の反応を窺います。相手が笑顔になるなどのよいリアクションをした場合は接触を促し、嫌悪感を示した場合はすぐにパロを下げてください。接触を促す場合も、すぐに抱かせようとせず、触ったり撫でたりするように声かけをしてあげましょう。

また、初めてパロに触れる人の中には、パロをただのぬいぐるみと思っている人もいます。その場合、触れる人にとってはパロがとても重く感じられることでしょう。そうなる、パロを抱くことがただ負担になってしまいます。その様な状況を避けるためにも、渡す時にかける言葉は重要です。



初めてパロに触れる人に渡す時にかかる言葉の例

例 「ほら、アザラシだよ。」  
「可愛いでしょ。抱いてみますか？」  
「どれくらい重いか試してみますか？」  
・・・など

### 3.2. パロに慣れている人に渡す場合

パロに慣れている人の多くは、パロのことが好きな人、パロを楽しみに待っている人と考えることができます。

例 「はい、どうぞ。」  
「〇〇さん、お待たせしました。」  
「〇〇ちゃん(パロの名前)ですよ。」  
・・・など

このような人の中には、渡された後パロを独占してしまう人がいます。そのような人には、「みんなで使いましょうね。」などと声をかけてあげるとよいでしょう。

### 3.3. グループに渡す場合

複数の人を相手にする場合は、“特定の誰かに渡す”ではなく、“全員に渡す”という場面が出てきます。その様な場合、本当はパロに触れたいのに遠慮してしまう人もいるので、“全員から見える”、“全員から手が届く”位置にパロを置くことを心がけると良いでしょう。例えば、複数の人が集まっているテーブルの真ん中に置く、などです。

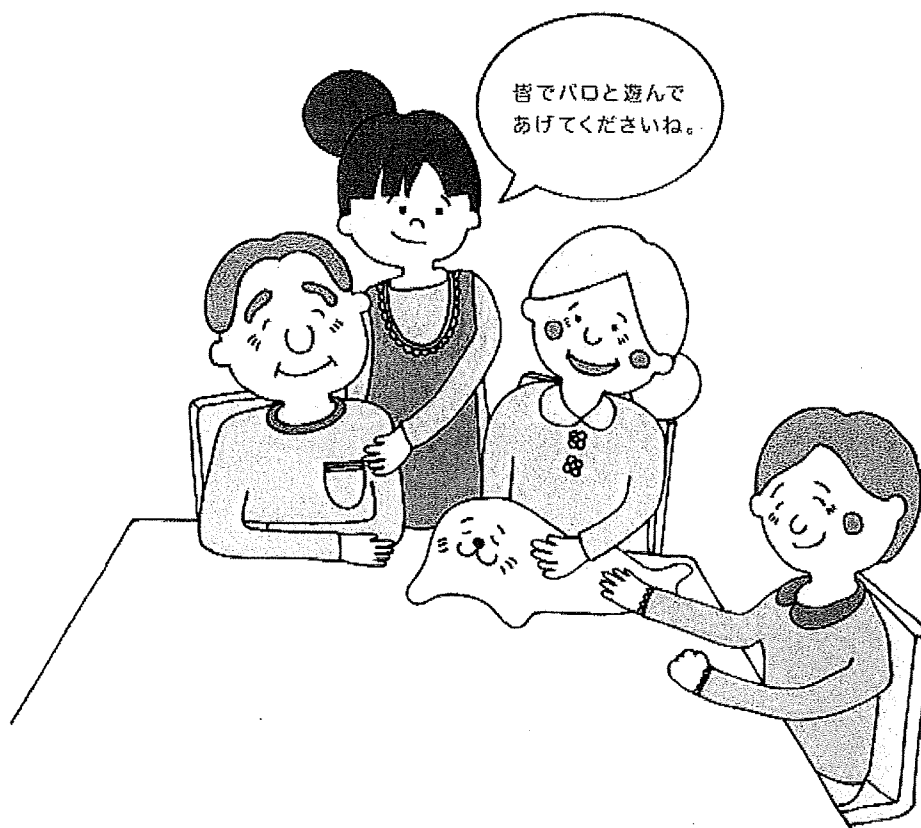
例 「こうすれば皆から可愛がってもらえるね。」(パロに話しかけるように)  
「みなさんの大好きなパロですよ。」  
「皆でパロと遊んであげてくださいね。」

・・・など

また、何人かいる中からその人に渡すため、相手の名前を呼ぶことが大切です。名前を呼びながら、初めての人・慣れていない人へのそれぞれの対応をすると、効果的です。また、渡す対象の人だけでなく、パロを持たない周りの人にも声をかけると良いでしょう。周りの人を巻き込むことで、コミュニケーションのきっかけになります。

例 「〇〇さん、どうぞ。」(その人の名前を呼ぶ)  
「〇〇さん、抱いてみますか？」

・・・など





### 3.4. 上記の例に加えてあげるとよい言葉

上記した例に、以下の様な言葉を添えてあげると、より効果的に触れ合い活動が行えるでしょう。

例 「可愛がってあげてね。」  
「可愛いでしょ。」  
「少し重いから気をつけてね。」  
「手、放しますよ。」  
「あたたかいでしょ。」  
・・・など

## 第4章 パロとの触れ合い中

触れ合い中、パロが好きな人は1人で遊ぶことができます。しかし、遊んでいる途中で会話が途切れたり、少し飽きてしまったりする時や、中にはどうやってパロと遊んでいいのかわからない人もいます。

その様な人がいた場合に、楽しくパロと触れ合ってもらうための注意点、パロとの触れ合いに再び引き込むための例を場面ごとに紹介していきます。

### 4.1. パロを長時間抱いている場合

パロが好きな人の中には、パロとの触れ合いに夢中になり、気がつかない間に長時間パロを抱き続けて疲れてしまう人がいます。また、責任感の強い人の中には、本当はパロを下ろしたいのに、下ろしてはいけないと考えてしまい、下ろせずにいる人もいます。その様な人がパロと触れ合っている時は、以下の様に声をかけてあげてください。

例 「重くないですか？」  
「疲れてないですか？」

・・・など



また、その様な人からパロを受け取りたい、横にパロを置いてもらいたいという時は、以下の様に声をかけてあげてください。

例 「私にも抱かせてください。」  
「隣に置いておいていいですからね。」

・・・など

#### 4.2. 叩くなど、乱暴に扱う人がいた場合

パロと触れ合う人の中には、パロに対して強く接する人もいます（この様な行為は、パロが機械と思っているからか、単純なストレス発散かもしれません）。その様な人がいた場合は、まず優しく接するように誘導します。それでも止めない場合は、パロを引き離すことも必要です。また、その周りで見ている人にも注意する必要があります。パロを好きな人にとっては、パロがいじめられていると感じられ、不快に思う可能性があるからです。



例 「〇〇さん、パロが痛いつて。」  
「優しく触ってあげてくださいね。」  
「パロがかわいそうだよ。」

・・・など

#### 4.3. 触れ合いが途切れた場合

パロとの触れ合いの途中で、利用者の注意が続かなかつたり、興味・関心が薄まったりするなどの理由から、触れ合いが途中で途切れてしまう場合があります。その様な人に触れ合いを再開してもらう場合は、以下の様に声をかけてあげてください。これは、パロとどのように接していいか分からずにただ抱いているだけの人にも同様です。

また、パロのリアクションはゆるやかなので、利用者に分かりにくいことがあります。「喜んでますよ。」や「怒っていますね。」などの様に、状況や相手に合わせて説明をすることも効果的です。

例 「撫でてあげてください。」  
「〇〇さん、こうやって撫でてあげてください。」  
「そんな恐る恐る撫でなくても大丈夫ですよ。」

・・・など

